

生活支援コーディネーター@AKITA

SCリレートーク

No.
3+

R5年度No.3でお話をお伺いした
川越さんに、活動について更に詳
しく教えていただきました！
※取材は令和6年度に行いました。

川越 晃彦さん

横手市社会福祉協議会
第一層SC

活動範囲 横手市内全域

活動内容 社会資源の情報発信やつなぎ、必要な取組を地域に働きかけて一緒に
検討し実践につながるよう取り組む。など

平成18年4月から社協に入職し、小地域ネットワーク活動等の地域福祉事業を通して
地域の皆さんと安心して暮らし続けられる地域づくりを進める。
令和2年度から第一層SCとして活動。

「誰かの隣と一緒に歩くだけでボランティアです」 マッチングを担うSCの“見つけかた”と“つなぎかた”

これまでの成果

- 交通手段が少なく集いの場に参加しづらい地域で、温泉施設による送迎付きサロンの立ち上げを支援。(サロンは月1回開催)
- 病院や企業、介護保険事業所、ボランティア団体等に協力を呼びかけて、“おでかけ”付き添いボランティア養成講座を実施。(現在14人が活動)
- 高齢者の活躍する場や子どもたちの福祉教育・多世代交流の機会づくりを行うため、地域食堂の立ち上げ支援(現在月1回開催)や学校の福祉学習の支援(高齢者との交流など)を実施。

課題

- 住民主体の取り組みに思うように移行していけないこと。
- 生活支援や介護予防に関心の薄い住民や団体等に興味を持ってもらうこと。 など

1層SC
川越 晃彦さん2層SC
西部エリアマネージャー
佐藤 美佳さん2層SC
東部エリアマネージャー
伊藤 奈穂子さん

横手市社協SCの皆さん

お揃いの上着かと思ったら…
背中は一人ひとり違いました！

2層SC
南部エリアマネージャー
長澤 忠義さん2層SC
西部エリアマネージャー
佐藤 美佳さん2層SC
東部エリアマネージャー
伊藤 奈穂子さん2層SC
南部エリアマネージャー
長澤 忠義さん

横手市のSCは、皆さん横手市社協に
いらっしゃるということですのでよね？
各地区担当の方は、支所にいらっしゃるん
ですか？

そうですね、自分が1層SCで、
2層SCが3名います。4人とも
同じ事務所にいます。

——差支えない範囲で皆さんの業務内容
と、1・2層の役割分担を教えてください。
令和2年度から4名体制です
が、今年度からは皆が「専任」に
なりました。

横手市内は、合併前の旧市町
村で見ると8地区ありますが、
2層SCが「エリアマネージャー」
という名前で、2・3地区ずつ担
当しています。1層SCは、地区
をまたぐ調整や、全市的な活動
を担当しています。

——昨年度のリレーワークに書いていた
いた活動の詳細をお聞きしたいのですが、
…送迎付きサロン、付き添いボランティア
地域食堂、これらはどんな経緯で企画され
たものなのでしょうか？

どれも、地域から聞こえたニ
ーズがきっかけです。

——ニーズはどこでキャッチすることが多い
ですか？

人の集まっている所ですね。
サロン等の地域の集まり、地
域ケア会議の場合もあります。

そこで聞いた話を元に、ほかの
社協職員と情報共有したり、必
要に応じて個別訪問することも
あります。

その場で何らかの支援やサービ
スに繋げることもあります。

——“おでかけ”付き添いボランティアや送
迎付きサロンの立ち上げ支援は、別途、取材
編で詳細にお伝えしたいと思います。

——地域食堂は…多世代の集える場とい
うことでしょうか？

多世代交流と高齢者の活躍
の場づくりとして取り組んで
います。

社協では子ども向けに福祉教
育も行っていて、学校とも連携が
とりやすいです。自分が元々福祉
教育を担当していたこともあり、
地域食堂に関しても案内など協
力いただきました。

——こちらのきっかけは？

地域に「子ども食堂をやってみ
たい」という高齢者の方がいらっ
しやったので、想いを叶えられる
ように後押ししたんです。

——どうやって後押ししたのですか？

市内で子ども食堂を運営して
いる方に、講師として来ていただ
いて、研修をしました。
それから、地区の中で3カ所く

らい、色々な会場で実際にお試
し開催してみました。食材とボラ
ンティアを募集するチラシを作っ
て住民に案内したり、エリアマネー
ジャーがお肉屋さんへ声をかけ
たりして…食材がたくさん集ま
りびつくりしました(笑)

——担い手のほうはどうでしたか？

高齢者の集まるサロンには参加
しないけれど、子ども達のために
何かできるなら…と興味を持っ
てくれた人がいましたね。「役に
立ちたい、手伝いたい」という気
持ちで。

ボランティアは、一般の方や学
生もいますが、ほとんど高齢者の
方です。勉強を教えてください、
趣味のマジックを披露してくれ
たり、寄せられた大量の食材で
たっぷり食事を作ったり…

それぞれ得意なことで、運営
に参加してくれています。

参加者を子どもに限定しない
ので「地域食堂」と呼んでいます
が、この食堂が、高齢者の活躍の
場であり、あらゆる世代をつなぐ
場になっています。

SCとしては、きっかけづくりと
いうか、やりたい気持ちのある方
の後押しをしたただけだと思っ
ています。

——(紙面には出ていないのですが)川越さ
んのお話には「つなぐ」という言葉が、自然
に、たくさん登場していました。
足を運び、直接お会いになっているのが印象
的で、色々な人や団体、機関に協力しても
らう下地になっているように思います。

——そして、川越さんのおっしゃる「後押
し」というのは、活動を始めるに当たっての
「ハードルを下げるためのサポート」のよう
に感じました。

——最後に、川越さんの感じている課題に
ついて、お聞きしたいです。

ニーズと資源をどうつなげてい
くか、ということです。

今、手元に見えているニーズと
資源だけではなくて「サロンに来
ていない人」「ボランティアに興
味ない人」「福祉に関係ない所
(一般企業など)」といった、今見え
ていないもの、どうつなげてい
くか。

今年度(令和6年度)、横手市
役所と地域包括支援センターと
SCの三者で、毎月研修を行って
います。年度初めにそれぞれの抱
える課題から「つまづき」「居場
所」「ひきこもり」という3つの
テーマを決め、テーマごとにチー
ムを作って、調査や検討を続けて
います。

横手市のこれからの生活支援
体制整備事業に繋がっていただけ
たらと話しているところです。

川越さん、ありがとうございました！